

1. 略歴

- 1999年3月 東京大学文学部歴史文化学科西洋史学専修課程 卒業
1999年4月 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野修士課程 入学
2002年3月 同 修了
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野研究生（～2003年3月）
2003年4月 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野博士課程 進学
（～2009年3月 単位取得満期退学）
2005年10月 ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン（以下、ミュンヘン大学と記す）歴史学科
中世史学専攻 登録留学生（Programm Student）（～2006年9月）
2006年10月 ミュンヘン大学歴史学科 博士候補生（専攻：中世史学、副専攻：歴史補助学）
2013年2月 同大学院 修了 博士号（Dr. phil.）取得
2015年4月 青山学院大学文学部史学科 准教授
2022年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

(1) 博士論文

Untersuchungen zu den Missi dominici. Herrschaft, Delegation und Kommunikation in der Karolingerzeit (Dissertation: Ludwig-Maximilians Universität München, 2013), 721pp.

(2) 単書

Herrschaft, Delegation und Kommunikation in der Karolingerzeit: untersuchungen zu den Missi dominici (751-888) (Monumenta Germaniae Historica, Hilfsmittel 31), 2 vols., (Wiesbaden: Harrassowitz, 2021), lxxx+1047pp.

(3) 共著

歴史学研究会編『歴史学と、出会う——41人の読書経験から』（青木書店、2015年5月）（担当「マルク・ブロック／井上泰男・渡邊昌美訳『王の奇跡——王権の超自然的性格に関する研究／特にフランスとイギリスの場合』190-195頁）

池田嘉郎・上野慎也・村上衛・森本一夫編『名著で読む世界史120』（山川出版社、2016年12月）（担当『ローランの歌』——キリスト教徒と異教徒、フランスと異国 165-167頁）

堀越孝一編『悪の歴史 西洋編・下』（清水書院、2018年4月）（担当「ピピン——その登極をめぐる角逐と排除」20-33頁）

中野隆生・加藤玄編『フランスの歴史を知るための50章』（明石書店、2020年5月）（担当「「フランキア」から「フランス」へ——「フランク人」小史 22-28頁）

三浦徹編『750年 普遍世界の鼎立（歴史の転換期3）』（山川出版社、2020年8月）（担当「西方キリスト教世界の形成」79-131頁）

高山博・亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的結合体——統治の諸相と比較』（東京大学出版会、2022年2月）（担当「第二部総説：大陸ヨーロッパにおける政治的結合体とその統治」121-129頁 [加藤玄と共著]；『恩恵』の剥奪——フランク諸王の統治における『威嚇』行為に関する一考察」131-151頁）

(4) 論文

“Carolingian capitularies as texts: significance of texts in the government of the Frankish kingdom especially under Charlemagne”, in *Configuration du texte en histoire*, edited by Osamu Kano (Global COE Program International Conference Series No. 12: Global COE Program “Hermeneutic study and education of textual configuration”, Proceedings of the Twelfth International Conference, 1-2 Sept. 2011, Nagoya) (Nagoya: Graduate School of Letters, Nagoya University, 2012), pp. 67-80. (同日本語版) 加納修編『歴史におけるテキスト布置』（グローバルCOE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第12回国際研究集会報告書）（名古屋大学大学院文学研究科、2012年3月）（担当「テキストとしてのカロリング期カピトゥラリア フランク王国の統治におけるテキストの意義について——シャルルマーニュ治世を中心に」205-215頁）

“Representations of monarchical ‘highness’ in Carolingian royal charters”, in *Problems and possibilities of early medieval charters*, edited by Jonathan Jarrett & Allan Scott McKinley (International Medieval Research 19) (Turnhout: Brepols, 2013), pp. 187-208.

- 「中心と周縁を結ぶ——カロリング朝フランク王国における命令伝達・執行の諸相について」『西洋史研究』新輯 43 号、2014 年 11 月、28-51 頁
- 「複合国家としてのフランク帝国における「改革」の試み——カール大帝皇帝戴冠直後の状況を中心に」『西洋中世研究』6 号、2014 年 12 月、160-174 頁
- 「初期中世ヨーロッパ政治史への「文書形式学的」アプローチ——定型表現の形成・変遷とその意義について」『史苑』75 卷 2 号、2015 年 3 月、175-202 頁
- 「カロリング期の政治的コミュニケーションにおける書簡の機能について（2016 年度歴史学研究会大会〈合同部会〉「3-8 世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニケーションの断絶と継受」）」『歴史学研究』950 号、2016 年 10 月、155-164 頁
- “Prädikate und Epitheta als Anrede und Selbstbezeichnung: eine Untersuchung zu ihren Bedeutungen in der schriftlichen Kommunikation der Karolingerzeit”, in *Écriture et genre épistolaires (EPISTOLA 1)*, edited by Thomas Deswarte, Klaus Herbers & Hélène Sirantoine (Collection de la Casa de Velázquez 165) (Madrid: Casa de Velázquez, 2018), pp. 49-58.
- “Threat and menace for stability: on the use of sanction clauses under the early Carolingians”, *Spicilegium*, vol. 3, 2019, pp. 15-25.
- 「記録を残し記憶が残る——カロリング期の史料と中世におけるカロリング期にまつわる過去の想起」『西洋中世研究』12 号、2020 年 12 月、2-18 頁
- (5) 小論・翻訳・その他
- (新刊紹介)「マイケル・L・ブッシュ著／指昭博・指珠恵訳『ヨーロッパの貴族——歴史に見るその特権』刀水書房、2002 年」『史学雑誌』114 編 2 号、2005 年 2 月、260-261 頁
- (新刊紹介)「佐藤彰一『歴史書を読む——『歴史十書』のテキスト科学』(ヒストリア 19) 山川出版社、2004 年」『史学雑誌』115 編 2 号、2006 年 2 月、243-244 頁
- (新刊紹介)「Steffen Patzold, *Episcopus. Wissen über Bischöfe im Frankenreich des späten 8. bis frühen 10. Jahrhunderts* (Mittelalter-Forschungen 25), Ostfildern: Thorbecke, 2008」『西洋中世研究』3 号、2011 年 12 月、205-206 頁
- (報告)「カロリング期政治エリートたちによる文書の利用・再利用についての覚書」(丹下栄編『カロリング期社会変革の基礎的研究。教会エリート、大所領』(2010~2014 年度科学研究費補助金(基盤研究 C) 研究成果中間報告書) 熊本大学、2013 年 3 月、48-56 頁
- (翻訳)「H・ダレル・ラトキン「ヨーロッパ史のなかの占星術——中世・ルネサンスから近代へ」」『史苑』74 卷 2 号、2014 年 3 月、176-207 頁
- (史料・文献紹介)「ハンス・K. シュルツェ著／小倉欣一・河野淳訳『西欧中世史事典Ⅲ——王権とその支配 (MINERVA 西洋史ライブラリー 96)』ミネルヴァ書房、2013 年」『歴史学研究』923 号、2014 年 10 月、61-62 頁
- (翻訳)「ゲオルク・シュトラック『教会「改革」から宗教「改革」へ——盛期・後期中世における教皇権』」『史苑』75 卷 2 号、2015 年 3 月、387-412 頁
- (史料・文献紹介)「堀越宏一・甚野尚志編著『15 のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房、2013 年」『歴史学研究』929 号、2015 年 3 月、63 頁
- (報告)「近代日本における／にとつてのヨーロッパ中世研究——ドイツ歴史学界との関わりから」(特集「外国史家が読み解く『近代日本のヒストリオグラフィー』)『史苑』77 卷 1 号、2016 年 12 月、83-95 頁
- (新刊紹介)「Osamu Kano et Jean-Loup Lemaître (eds.), *Entre texte et histoire: études d'histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato* [De l'archéologie à l'histoire], Paris: De Boccard, 2015」『西洋中世研究』8 号、2016 年 12 月、271 頁
- (学会動向)「ヨーロッパ 中世 一般 (回顧と展望)」『史学雑誌』126 編 5 号、2017 年 6 月、305-307 頁
- (学会動向)「ヨーロッパ 中世 中東欧・北欧 (回顧と展望)」『史学雑誌』126 編 5 号、2017 年 6 月、311-316 頁
- (緒言)“Communication techniques and their effects in the Carolingian age: preface”, *Spicilegium*, vol. 3, 2019, pp. 1-2.
- (研究ノート)“Some remarks on consensual aspects in the Carolingian monastic communities”, *Aoyama Shigaku: Aoyama Historical Review* (『青山史学』) 38 号、2020 年 3 月、pp. 37-52.
- (6) 学会・研究会報告
- 「シャルル禿頭王の王国統治——王国集会和ミッシ・ドミニキの関連を中心に」史学会第 101 回大会、2003 年 11 月 9 日 (於東京大学)
- “Herrschaft durch Delegation? Zur Funktion der Missi dominici im westlichen Teil des Karolingerreiches”, Kolloquium zur Mittelalterlichen Geschichte, Dec. 13, 2007 (於ミュンヘン大学)
- “Herrscherrepräsentation in der Urkundensprache: am Beispiel Karls des Kahlen”, Kolloquium zu den Historischen Grundwissenschaften, Jan. 13, 2009 (於ミュンヘン大学)

- “Monarchical representation in Carolingian royal charters: how high the king?”, International Medieval Congress 2011, July 14, 2011 (於リーズ大学)
- “Carolingian capitularies as texts”, Configuration du texte en histoire. The 12th international conference of Global COE Program
“Hermeneutic study and education of textual configuration”, Sept. 2, 2011 (於名古屋大学)
- 「カロリング期におけるアーカイヴの利用および「アーカイヴァル・ネットワーク」について」『教会と社会』研究会
10月例会(第33回)「カロリング期の「書かれたもの」と社会」、2012年10月20日(於早稲田大学、オンライン開催)
- 「カロリング期北・中部イタリアにおける王の代理人について」史学会第110回大会、2012年11月12日(於東京大学)
- 「カロリング期文書コミュニケーションにおける君主の尊称について」第63回日本西洋史学会大会、2013年5月12日(於京都大学)
- “Herrschaft, Delegation und Kommunikation: zu den Missi dominici der karolingischen Herrscher”, Kolloquium zur mittelalterlichen Geschichte, June 3, 2013 (於テュービンゲン大学)
- “Prädikate und Epitheta in den Briefen der Karolingerzeit: zu den Funktionen der Selbstbezeichnung und Anrede in der schriftlichen Kommunikation”, Colloque international organisé par le CESCUM “Écriture et genre épistolaires (IV^e-XI^e siècles)”, June 5, 2013 (於ポワティエ大学)
- 「中心と周縁を結ぶ——カロリング朝フランク王国における命令伝達・執行の諸相について」2013年度西洋史研究会大会、2013年11月9日(於立教大学)
- 「Renovatio regni Francorum sive imperii?——カール大帝戴冠直後の「改革」について」歴史学研究会ヨーロッパ中世史・近世史合同部会12月例会、2013年12月22日(於早稲田大学)
- 「アルプス以北における教皇の権威と教皇文書の影響力——初期中世における基盤形成とその後の展開」第64回日本西洋史学会大会シンポジウム「回路としての教皇座——13世紀ヨーロッパにおける教皇の統治」、2014年6月1日(於立教大学)
- “Beyond the Alps: transalpine links through royal multifunctional envoys”, Séminaire “Les communications politiques dans l'Empire carolingien”, June 5, 2014 (於バリ第8大学)
- 「初期中世ヨーロッパ政治史への「文書形式学的」アプローチ——定型表現の形成とその意義について」2014年度立教史学会大会公開講演会「ユーラシア東西における古文書学の現在」、2014年6月21日(於立教大学)
- 「コメント：近代日本における／こととしてのヨーロッパ中世研究——ドイツ歴史学界との関わりから」シンポジウム「外国史家が読み解く『近代日本のヒストリオグラフィー』」、2016年3月7日(於慶應義塾大学)
- 「カロリング期の政治的コミュニケーションにおける書簡の機能について」2016年度歴史学研究会大会合同部会シンポジウム「3-8世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニケーションの断絶と継受」、2016年5月29日(於明治大学)
- “Authority in the distance: popes, their media, and their presence felt in the Frankish kingdom”, Symposium “Medieval papacy: governance, communication, cultural exchange”, Feb. 18, 2017 (於立教大学)
- 「記録を残し記憶が残る——カロリング期の史料と中世におけるカロリング期にまつわる過去の想起」西洋中世学会第10回大会シンポジウム「カロリング期の記憶」、2018年6月24日(於東洋大学)
- “Monk, monasteries and pastoral care in the Carolingian age: authorities and practice”, International Symposium “Pastoral care and monasticism: ca. 800-1650”, Mar. 1, 2019 (於岡山大学)
- “Threat and menace as communication technique in the Carolingian age”, Workshop “Communication techniques and their effects in the Carolingian age”, Mar. 10, 2019 (於青山学院大学)
- “Sigebert von Gembloux und die Kapitularien Karls des Großen”, Forschungskolloquium zur Geschichte der Spätantike und des Frühmittelalters, June 18, 2019 (於ベルリン自由大学)
- “Some remarks on consensual aspects in the Carolingian monastic world”, Workshop “Authority and consent in medieval religious orders”, July 26, 2019 (於ドレスデン工科大学)
- “Poenformeln im Kontext: zur frühmittelalterlichen Kultur der Bedrohung”, Stuttgarter Mittelalterwerkstatt, Nov. 20, 2019 (於シュトゥットガルト大学)
- “Überlegungen zur Kultur der Drohung im Frühmittelalter: einige Fallstudien”, Forschungskolloquium zur Geschichte der Spätantike und des Frühmittelalters, Jan. 7, 2020 (於ベルリン自由大学)
- 「海域世界の中のカロリング帝国」第70回日本西洋史学会大会小シンポジウム「中世北ヨーロッパにおける海域ネットワーク、島嶼、政治権力」、2020年12月12日(於大阪大学、オンライン開催)

- “Vorstellungen der maritimen Welten in den karolingischen Geschichtsschreibungen”, Forschungskolloquium zur Geschichte der Spätantike und des Frühmittelalters, Jan. 12, 2021 (於ベルリン自由大学、オンライン開催)
- “Empire surrounded by seas: Carolingian images and perceptions of the sea”, Premodern Mediterranean Seminar, Apr. 28, 2021 (於南カリフォルニア大学、オンライン開催)
- “Authorities and Consensus Building in the Carolingian Monastic World: in a Case of a Conflict”, International Conference “Authority and Consent in Medieval Religious Communities”, Oct. 28, 2021 (於ザグレブ大学、ハイブリッド開催)
- “Briefe der Geistlichen in der Karolingerzeit: Zwecke und Funktionen”, 国際シンポジウム「中世社会と書状—文書実践の日欧比較—」、2022年3月11日 (於明治大学、オンライン開催)
- “Some remarks on Paris BnF lat. 9654”, 4th meeting of the project “Legal culture(s) in the Frankish world”, March 22, 2022

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

- 立教大学文学部兼任講師 (2013～2014年度)
- 江戸川大学非常勤講師 (2013～2014年度)
- 駒澤大学文学部歴史学科非常勤講師 (2014～2015年度)
- 獨協大学外国語学部ドイツ語学科非常勤講師 (2014年度)
- 日本女子大学文学部非常勤講師 (2014年度)
- 学習院大学文学部史学科非常勤講師 (2021年度)
- 上智大学文学部史学科非常勤講師 (2021年度)
- 東京大学文学部人文科学部西洋史学専修課程非常勤講師 (2021年度)
- 青山学院大学文学部史学科非常勤講師 (2022年度)

(2) 非常勤研究職

- バイエルン学術アカデミー「ドイツ中世歴史史料総覧 (Repertorium: Geschichtsquellen des deutschen Mittelalters)」プロジェクト研究補佐 (Wissenschaftliche Hilfskraft) (2009～2011年度)
- ミュンヘン大学「カロリング期教会法 (Carolingian Canon Law)」プロジェクトリサーチ・アシスタント (2010年度)
- Monumenta Germaniae Historica (ドイツ中世史料編纂所: ミュンヘン) 研究員 (2011年3月～2012年2月、2012年7月～2013年1月)
- ミュンヘン大学「フリードリヒ2世皇帝文書編纂 (Herausgabe der Urkunden Kaiser Friedrichs II.)」プロジェクト研究補佐 (2011～2012年度)
- ベルリン自由大学フリードリヒ・マイネッケ研究所客員研究員 (2019年度)